

総合計画特別委員会 産業建設分科会 会議記録

1. 日 時	令和7年10月14日 9時30分開会 令和7年10月14日 14時20分閉会
2. 場 所	議員協議会室
3. 出席議員	荒木礼子座長、隅田雅春副座長、金崎美和委員、渡辺拓道委員、大内正博委員、上田英樹委員
4. 欠席議員	なし
5. 参考人	なし
6. 傍聴人	なし
7. 会議に付した事件	<p>第3次丹波篠山市総合計画（案）について</p> <p>小目標</p> <p>環境を守る、まちづくりに活かす</p> <p>魅力ある農業を育てる</p> <p>農地と農村環境を守り未来に継承する</p> <p>丹波篠山観光で地域のうるおいを高める</p> <p>外国人観光客のおもてなし体制を整える</p> <p>元気な商いで地域のにぎわいを興す</p> <p>日本遺産・創造都市をまちづくりに活かす</p> <p>多様な人材と交流でまちをつくる</p> <p>丹波篠山の宝石（地域資源）を日本の宝石に育てる</p> <p>丹波篠山ブランドの情報を効果的に発信する</p>
8. 議事の経過	<p>開会 9：30</p> <p><b>【分科会】</b></p> <p>荒木座長 開会宣告</p> <p>荒木座長 あいさつ</p> <p><b>■ 日程第1 第3次丹波篠山市総合計画（案）について</b></p> <p><b>環境を守る、まちづくりに活かす</b></p> <p>農都創造部（森づくり担当）</p>

【主な説明】

森づくり課より説明

【主な質疑】

隅田副座長

成果指標の森林整備面積の間伐については、平成 26 年から始められて、当初の目標は 325 ヘクタールで大体 280 ヘクタールぐらいを整備されていたと思うんですけども、ここ最近では急激にダウンして、今年度は 100 ヘクタールぐらいということです。境界の認知が非常に難しいというのは分かるんですが、今後の方向性について、この傾向が続いて 80 ヘクタール、70 ヘクタールと減っていくのではないかと思ったりするんですが、今後について説明お願いしたいと思います。

農都創造部（森づくり）

今、森林組合などでお願いをしている間伐につきましては、所有者がはっきりしていて施業を比較的しやすい場所を中心に間伐していただいております。325 ヘクタールという年間計画を立てておりますが、現状は年間 100 ヘクタールと目標との開きがございます。まだ未間伐のところでは管理者や所有者がはっきりしていて施業しやすいところをピックアップして、目標の見直しを掲げております。その中で、森林組合と協議して 100 ヘクタールはできるであろうというふうなところで、今、施業しておりますので、今後減るという見込みは立てておりませんが、目標を逆に見直して、できるだけ目標と実際の実績とを近づけるように検討しております。

隅田副座長

その境界が難しい地域の確定にどのような手段を使っておられるのか。簡単に説明をお願いしたいと思います。自治会長に依頼して、ここの辺は誰が持っておられたとか。難しさとされている取り組みについてお聞きしたいです。

農都創造部（森づくり）

境界が確定してないところに関しましては、もう施業をするという意識自身がなかなかないというところで、そういうところは全然、手も挙がってこないところになっています。ただ、地域で見ますと、何とか山をやっていきたいという声を出されている地域、また生産森林組合等がございますので、その中の代表者とお話をさせていただく中で、境界未確定など誰に聞いたらいいのか分からないところは、そこからやろうとしていまして、特に大山地区で幾らかそういう手を挙げようとしているところがありますので、まずそこから人工

林率も高いところでもあるので、そこでモデル的なものをつくっていったって、こういったことをしませんかというのを広げていくということで対応しようと考えているところです。

隅田副座長

空き家対策で当初、空き家が650軒あってこれから増えてくるので大変だというときに、空き家の適正管理と有効活用条例ができました。その頃の持ち主に聞くと、1年に1回とか、また数年に1回は家には帰っているが、仏壇があるのでなかなかどうしようかということまでは、考えられていないというような状況だったんですが、この条例がつくられて、5月の固定資産税の通知のときに黄色い紙を添えて、この空き家を将来どうされる予定でしょうかというような形で市役所からの問合せを送ることによって、放っておかずに何とか手を打たないといけないんだというような意識に変わった人が私の知り合いでもいました。そういう面で、この山も都会にいて、何も考えていないというような人に対して、山の境界を決めないといけないんだなというような意識づけができるような手を何か考えていただければと思います。これはお願いというところです。そうでない材木を売ってもお金にならないし意識づけが上がってこないと思います。自分が持っておる山に手を打たないといけないと、市役所からの通知を見て改めて考え直すというような手が取ればなと思っておりますのでよろしくお願いします。

農都創造部（森づくり）

今まででしたらおっしゃるような山に手を入れませんかというアプローチに手を挙げていただける方がいらっしやいまして、それが大分進んできています。手を挙げてこられないので、今年度から新たに取り組んでいますのは、市からの発信だけじゃなくて、地域と林業者がセットとなって山を個別じゃなくて集約化し、取りまとめて整備につなげるということを今年は2地区で予定しておりまして今、一地区で進んでおります。そうやって地域の森林所有者の方々が声をかけ合って、山の整備を進めていくというアプローチが大事なかなと思っております。集約が効率化を進めるためにも必要と考えております。

上田委員

小目標では森林について、成果指標、施策の展開の方向、主要な取り組みの概要の中でも記述があるのですが、現状と

課題のところでは森林について何も明記してありません。だから今、森林の現状と課題はどうなっているのかということは、現状と課題の中で記述すべきであると思います。間伐の需要がどうだとか、自伐型林業が求められているとか。ここにしっかり書いて、だから次の方向に持っていくんですよという記述をしていただきたいというのが私の考えですけど、いかがでしょうか。

農都創造部（森づくり） 御指摘のとおり記述が抜けておると思いますので、検討したいと思います。

渡辺委員

私もいろんな地域の山とか林業、自伐型林業をされている方の活動を拝見させていただいているのですが、そこから見えてくる丹波篠山の山というのは、やはり他所で林業経営体や自伐型の方がされている山とはちょっと違うなと感じています。ほかのところはどちらかというと、林業経営体、自伐型も含めて、活動されるエリアは奥山的なところ、ちょっと入り込んだところの山で活動されています。それに対して丹波篠山の場合は、住家から見えるところで作業されています。気配や音とかが分かるいわゆる里山の中で活動してもらわないといけないところです。ですので、ほかの地域と比べて住民さんへの配慮や住民の理解がなければ、なかなか森林整備が進まない地域だと思いますので、かなり特異性を感じています。そういった中で、全体的に林業経営体自身が少ない山を誰に管理してもらおうかというところで、行政側が人を担保してあげる必要があるのかなという気はしています。というのは、やっぱり森林というのが田んぼと違って、1年で収穫ができるというものではなくて、非常にスパンの長い間、その人に関わってもらわないといけないので森林所有者さんもかなり不安に思われます。ですので、単に自伐型であるとか林業家を育成するというだけでなく、この方については将来にわたって行政が一定の責任を持って関わっていきますというような、県の指導林家とか青年林業士みたいなものとはちょっとタイプが違うと思っていまして、どちらかというと、私がイメージするのは、農業の認定農業者みたいな形のもので、ある程度、行政側のほうもお墨つきを与えて施策もそこに集中していくというような取り組みが必要

じゃないかなと思います。現段階では自伐でいいんですけども、5年のスパンを考えるこの計画では、5年の終わりのあたりにはそのような任認定制度的なものを市としてきっちり整えて、将来30年、50年先ぐらいまでを見据えた形の林業施策を打っていかないといけないのかなと思いますけども、その辺りの部分を感じ取れるような記述だったらうれしいなと思っておりますが、その辺り基本的にそういう考えを持ってもらえるのかということだけお聞きします。

農都創造部（森づくり）

丹波篠山市として林業のお手本としようとしているところが養父市や朝来市です。今、渡辺委員がおっしゃるようなところでは、森林組合は当然あるんですけども、森林組合から独立された方が親方のような立場で若い林業者の方がそこで習って林業を続けていかれるというような制度を持たれています。また、朝来市では、自伐の協議会というものを持たれて、何かあっても協議会や親方がフォローして回るというような制度があります。そのようにして長期間にわたる林業施策を担保されているようなところもございますので、具体的には今回の総合計画に書かれていませんけども、そういう誰かが支えるという仕組みは長く続ける林業施策に必要なだと思っておりますので、どれぐらい先になるかはわかりませんが、私どもが担保するような制度みたいなものはつくっていききたいとは考えております。

大内委員

91 ページ、施策の展開の方向の上から4つ目、「森林所有者に代わって、森林管理を行う森林事業者、小規模な搬出間伐の支援を行い」ますということで、総合計画の中で、かなり自伐型林業というところを推していると思うんですけども、先ほど、認定農業者の例えがありましたが、小規模なところをピックアップしたような書き方をされているんですけども、それについて私はどうなのかなというところがあって、大規模もあったり小規模たりする中で、自伐型林業をピックアップして推していますよっていうように、幅広く書かれたほうがいいのかというのが私の意見です。

農都創造部（森づくり）

自伐型を意識して書いているところもありますが、やはり森林組合のような大きな単位でやる林業者と、隙間でやる小回りのきく林業者というのは当然、必要だと思っております。

特に、先ほど渡辺委員からありましたように奥山の大きな山というのは余り存在しないのが丹波篠山ですので、小さな規模の山をどうやっていくかというのも大事です。そういった小さな林業を支えるということが今後大事かなと思ってますので、森林組合の規模も維持しつつ、その隙間を埋める林業者を育成していきたいという目標を持って進めているところです。

大内委員

大型の林業者と小規模な林業者もあるということですが、丹波篠山の現状を教えてください。

農都創造部（森づくり）

森林組合は比較的大きな規模でやられています。ランバージャックさんはどちらかというと切るだけの形で、その間に、デカンショ林業さんとか、個人でやられる方がいらっしまして、森林組合としては規模的に経営が成り立たないので取り組めないところでも、小規模があるがゆえに手が出せる形になっています。丹波篠山ではどちらかというと小さな規模の森林が多いので、そこでしっかり作業できる方を育てていきたいと思っています。現状では、新たに地域おこし協力隊の方が将来も林業をやろうという方も出てこられてますので、そういう方をしっかりと現場で活躍できるような取組が今後、必要だと思っていますので、支援をしていきたいと考えております。

## 農地と農村環境を守り未来に継承する

農都創造部（農業担当）

農都政策課、農都整備課、森づくり課より説明

### 【主な質疑】

上田委員

農地と農村環境を守り未来に継承するという項目ですが、全体を通しまして、耕作放棄地の現状と課題とか取組が何も入ってないんですけど、この辺は、今後5年間どう考えておられるか。ここに記述すべきであると私は思うんですけども、その辺の考えをお聞かせください。

農都創造部（農業）

耕作放棄地の現状と課題については、農業従事者の高齢化、

また担い手の不足によって、現状及び今後、必要とされる大きな課題であると考えております。一方で、現在、農都創造計画の作成を進めている中で、そちらのほうでは具体的に記載をしております。今の御指摘も踏まえて、農地と農村環境を守り未来に継承するという観点から、内容を検討していきたいと考えております。

上田委員

農地と農村環境を守り未来に継承するのであれば、私はこの成果指標に挙げておられる多面的機能支払交付金事業に取り組む集落数とか農都のめぐみ農産物認証制度を活用する水稻栽培面積とか有機農業の取組面積よりも、農地の土台である耕作放棄地をどうしていくのか。また、耕作放棄地になったところをどうしていくのか。そうしたことを総合計画の中で記述していただけたらと思います。

もう1点、98ページの成果指標の中で、今回、鳥獣被害防止計画に基づく捕獲達成率、シカのみという指標と現状93%、目標100%という項目を追加されました。特に昨年度からこの委員会の中でも、度々、各委員から意見が出て、また現状で各自治会のほうに来年の獣害防止柵の取組状況はどうでしょうか。それに基づいて国への補助金申請を上げますというようなアンケートもとられる中で、特に今田地域等でまだ獣害防止柵ができてないところを、これから年次計画に基づいて、獣害防護柵を設置していこうという大きな獣害防止の取組をしている中で、この総合計画の中に、内容は平仮名の「獣がい」に変わるんですけど、せめて成果指標の中やほかの項目のどこかに獣害防護柵を、今後5年間の中期計画として明記すべきではないかと考えていますけども、その辺いかがでしょうか。

農都創造部（森づくり）

現在、各自治会、農会等の主要な団体に獣害柵の要望を上げております。その中で、来年度の獣害柵の計画は、その要望に基づきたてておりますが、5年間という長期においてはなかなか立てづらいところがございますので、持ち帰って、どういうふうに計画を立てていくかというのは検討していきたいと思っております。

上田委員

今、令和8年度のアンケート取られている中では、どれぐらいの設置要望があるかというような中で、国に向けて予算要求をされているという状況です。そうした中で、国におい

ては満額で予算がつかない場合も考えられます。やはり私が言っているのは、成果指標の中だけでなく、やはり今後、獣害柵を未設置のところは獣害柵を設置するという大きな目標をこの5年間を立てられていますので、この成果指標の中で実際にこれだけしようというところはなかなか難しいというお答えでしたが、獣害柵を設置していくというのは総合計画の中にきっちりと記述すべきと考えておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

農都創造部（森づくり） 獣害柵の設置には、設置後も破れ等の補修の点検というようなところがついて回ります。それは設置を要望された自治会や農会で負担いただくこととなりますので、設置においては未設置のところ、また老朽化したところを中心に考えておりますが、主要なところはやはり自治会の要望というところがございますので、自治会や農会の要望を聞きながら設置計画を立てていきたいと考えております。

上田委員 お気持ちはわかるのですが、総合計画に記述するのかわからないのか、それだけです。大きな施策として獣害防止柵を今後5年間で設置するというのをきっちり明記するか明記しないか、そこです。

農都創造部（森づくり） 持ち帰って検討したいと思います。

上田委員 持ち帰ってというのは、必要ではないというふうに思われているのか、その辺どうでしょうか。

農都創造部（森づくり） ちょっと数値的に上げるのが難しいという意味合いで、しっかり取り組んでいかなければいけないことなので、先ほど申し上げたように、農地をしっかり防護することが獣害対柵の基本もありますので、前向きな取組は間違いないので記述の仕方について検討させていただきたいと思います。

渡辺委員 農業施設の維持管理の件です。本当にいろいろと難しい課題に取り組んでいただいているのですが、地域計画によって農地の集積をさらに進めていくというような方針があって、集積が進むということは農地の所有者と農地の利用者が分かれてくるということになります。農業施設の維持管理については多面等もありますが、基本的には農地の所有者の住民さん中心に管理をしてきていただいている中で、やはり今後、土地改良施設等含めて水路等の改修をしていくことへの関心

が薄れていくのは間違いないと思います。その辺りのことについて、現状と課題の二つ目に、「農家のみなさんの手によって」、「用排水路、井堰やポンプなどの土地改良施設が機能を発揮できるよう、適切に維持管理されています」と書き切ってしまうんですけども、日常の維持管理はできていると思います。ただ、施設の更新も含めた体制がきちりあるかというところが非常に不安定な状況になっていますので、その辺りについては課題意識を持って、それについてどう取り組んでいくか。土地改良の在り方の検討会もされていますけども、ちょっとメンバーを見る限り現場を分かっている方が本当に少ないように思います。非常に多様な意見が出てくるのはいいと思いますが、本当に現場に合った在り方がまとめられるか非常に危惧をしています。ですので、その辺りについてはきちりと、使用者と所有者が完全に分かれてくる状況があって、その対応をどうするかについては問題意識を持って施策の中に落とし込んでもらえたらうれしいなと思います。

農都創造部（農業）

渡辺委員がおっしゃられたとおり、土地改良区の在り方検討会でも所有者と使用者、耕作者との関係性について話をしております。今おっしゃられたとおりで、ここでは「適切に維持管理されています」と書いておりますけれども、私の経験で、今年度にあったことですが、所有者と使用者の関係で、いわゆる土地持ち非農者の関係ですけども、負担金に関して地域で苦勞されているということはお聞きしました。その辺りもありますので少し検討したいと思います。

大内委員

成果指標のところ、多面的機能支払交付金事業について、現状 201 集落から目標 203 集落になっています。地域計画もあって、この多面的機能の事業も 20 年以來続く事業になっています。ここでやっぱり次、広域化を増やしていくような目標指数にしたほうがいいのではと思っています。今まではしていたけど、できていない集落も増えてきている現状です。広域化することで、できてない集落を網羅できるのではというとも思いますが、広域化をぜひとも目標数値にしてほしいと思うのですが、いかがでしょうか。

農都創造部（農業）

現状 201 集落といますのは、令和 6 年度の集落数を書かせていただいております。令和元年度については 199 集落で

取り組んで頂いておりました。平成 26 年度に多面的機能支払交付金は始まりましたが、そのときは 197 集落で 5 年ごとに 2 集落増やしていくというような状況です。おっしゃられたとおり広域化ということで、今まで取り組めなかった、または事情で活動をやめられた集落もごございますので、広域化は集落数が増える一つの大きな要因になるかなどは考えておりますけれども、現在、広域化は 3 組織ございますけれども、成果指標の数値として加えることについてはちょっと検討させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

### 魅力ある農業を創造させる

農都政策課より説明

#### 【主な質疑】

上田委員

昔の言葉で言うと都市と農村の交流、今の言葉で言うと交流人口。そして、総合的にコーディネートする人材、産業建設常任会で議会報告会に入ったときに、こういう言い方したら失礼かもしれんけど、川阪のオープンフィールドがうらやましいなとか、鈴木先生みたいな方がおられたらいいなというふうな意見をお聞きしました。また RMO を推進するにも人材という言葉が多々聞かれます。そのような中で、今回の総合計画のこの小目標で目指すことでは、「農業関係者だけでなく多様な人材との連携」というところが入っているんですけども、現状と課題の中では、「将来の農地利用の姿を示す地域計画の実現に向けた話合いえを通じて、それぞれの役割を担うことが求められています」とあります。これは、どっちかというところ、そこに住んでいる者、そして次の「認定農業者の育成や集落営農組織化・法人化」、これも今やっている範囲にとどまっています。次は、「大規模経営農家と小規模・家族農家、集落営農組織等が連携」、これもどっちかと言うと、外部というよりも内部でとどまっています。そして、施策の展開の方向の中では、「多様な担い手がそれぞれの役割を担う集落営農を進めます」と書いてあります。主要な取組の中でも、「集落内の農業後継者や集落外の新規就農者の確保」とか、どちらかというところ、この地域に住んでいる者に特化された記述になっていると思いま

す。やはり都市と農村をつなぐ交流の人材の確保とか、交流人口の確保とか、都市の人とのつながりを求めることと、それをコーディネートする人材の確保が、今後の5年間の中で求められるのではないかと思います。どうしても活性化しているところは、ある程度、外の人材も入ってきた中で、様々なところと連携しているのが現状だと思いますので、その辺は記述すべきじゃないかと考えますがいかがでしょうか。

農都創造部（農業） 確かに現状、農業を主として、多くの皆さん、地域の方々が携わっている中で、そうした記述が中心となっているように思います。現状、地域の中では外部の方々が多く関わって、それも年代層関係なく、様々な地域で活躍されると同時に、地域の中でも、コーディネーター役として活躍を頂いているようなところです。農都創造計画の更新においても、そういった関係人口、交流人口の記述もございますので、今頂きました御意見も含めて総合計画のほうに前向きに記載できるよう検討していきたいと思ひます。

上田委員 交流人口という言葉が今の流行りなんですけど、どっちかと言うたら観光、定住対策、地域コミュニティに伴うまちづくりとかに使われがちですけど、丹波篠山はある程度ブランドを持っている中で、農業の中でも交流人口とそれをコーディネートする人材の確保を総合計画の農業分野の中に書き入れていただいたほうがより厚みが増すのかなと思ひますので、よろしくお願ひします。

渡辺委員 どういう趣旨で書かれたのか確認したいのですが、施策の展開方向の1番最後に、「また、規格外品の有効活用など、農業者の収益確保を進めます」という部分があるんですけども、その辺り、どういう思いで記述されているのかお伺ひします。

農都創造部（農業） 規格外品の有効活用については、総合計画の委員会からの御意見も踏まえてのことになります。現在、特産物の高付加価値化というふうなことで進めてきておりますけれども、その中でも、今後も高付加価値化だけでなく、規格外品の有効活用も含めて、加工などの視点も持って農業者の収益を高めていくというようなことで記載をさせていただいております。

渡辺委員 規格外品に取り組むことが主なのか、収益確保が主なのか。どちらを主と考えておられますか。

農都創造部（農業） 有効活用などというふうな取組も含めながら農業者の収益確保というのが主にあります。

渡辺委員

収益確保の部分を書いてもらうということで評価をします。やはり丹波篠山の農業は収益性が低いです。全国を見渡しても特産の農産物があって、それをつくってもそれだけで生活ができないという非常に珍しい地域です。黒豆を単品で一定面積つくって生活が成り立つようになって産地と呼べるんですが、まだ産地まではなっていないのかなと思います。こういう規格外品の有効活用も一つの経営的な手法ではあると思いますが、そういう細部のことではなく、全体的に収益性確保を、やはり特産をしっかりと作ってもらったら経営が成り立つという方向を持ってもらわないとなかなか新しい農業者も難しいと思います。いかに特産物、特産品の生産性を上げていくかということにかかっているかと思うので、そこにはある程度、特化して取り組んでいただかないと担い手がどんどん少なくなっていく中で、ちょっと手後れになるのかなと思います。規格外品の有効活用というところは引かかるのですが、しっかり収益確保、収益性の向上、そういうような形で、一つの大きな課題と施策の方向としてもらって、いろんなスマート化も含めて機械化等をしていっていただけたらと思うんですけどもいかがですか。

農都創造部（農業）

御指摘のように所得確保の一つの手段としての規格外品の活用という記述が、読まれる方には主たる施策として誤解を招くようなこともあるかもしれないという御指摘だと思いますので、その表現については見直したいと思います。

大内委員

現状と課題の1番下ですけど、「新品種の導入などが求められています」ということで、今、農都のめぐみ米のコシヒカリや丹波の黒大豆をやっているんですけど、今年の解禁も5日から10日をずれているところを見ると、これはどのような意図で書かれたのか教えてください。

農都創造部（農業）

気象変動について、これまでの過去5年間の中ではなかなか予測しにくいというところがありました。今後においては、農業者の収益確保に向けては、高温、少雨に対する対策や品質の向上に向けては新しい品種の導入などは欠かせない課題であると思っております。5年後に向けても、そういった視点も含めながら、例えば黒大豆の優良な種子の確保は一つの方法として取り組んでいまして、継続していく必要はあります。時代に合わせた新たな検討も必要であるということを考えながら計画に記載をしております。

す。

金崎委員

成果指標のところですか。黒大豆・枝豆と山の芋の栽培面積の現状と目標があるんですけども、前期計画では黒大豆、山の芋、小豆を一つのまとめていたのを分けられています。数値について、現在、作付面積がどんどん減少している中で現状維持とされていますけれども、これだけを見るともっと増やしていこうという思いがないのかなというふうに捉えてしまうので、その辺どういうふうに思われているのか教えてください。

農都創造部（農業）

まず前期計画では、おっしゃっていただいたように、特産物というのを全体的な面積として指標にしてきました。現状、少しずつ農業従事者の高齢化とかで特産作物が減少してきています。最近では、お米の影響も受けて作物の栽培面積が変化してきている状況もございます。そういった中では、それぞれの作物ごとに目標を立てていくべきかと考えて区分けをさせていただきました。まず、現状が令和6年度の実績面積となっております。今、申し上げたように、農業者の方々が減少、高齢化によって栽培される面積が減るのではないかなという予測も担当部署ではしております。維持に向けた方法としましては、それぞれの農業者が、それぞれのやり方で農作物を生産するのではなくて、今回、それぞれの分野で書いております大規模集落へ個々の農業者が連携して作物をつくっていくということで、例えば機械の共同利用とかも含めながら農業者ができるだけ離農しないような、コストをかけなくても農業生産ができるような仕組みを地域の方々に提案していけたらと思い現状維持の目標数値とさせていただいております。

荒木座長

先ほどのことに関連してしまうんですが、黒大豆としての出荷がすごく減っていると思うんですけども、黒大豆、黒枝豆は、別々に記載したほうがいいのではないかと思ったことが一つです。これは意見です。

続いて、もう一つ、小目標で目指すことの冒頭に、「丹波篠山市の農業は、集落営農組織や大規模農業者を中心的な担い手としつつ」とあります。このような文言は恐らく初めてぐらいの明記かなと私は思います。恐らく農都創造計画の中で、今後そのような方向でいくのかなと思っているんですが、丹波篠山市においては、全国的にもそうですが8割が家族経営体、小さい農家によって支

えられている部分もあります。丹波篠山市においては、この小規模な農家が頑張っている状態の中で、このように明記をすると、みんなが意欲を持って目標を持って取り組める農業の仕組みに持っていきにくいのではないかなと思います。もうちょっと文言を変える配慮というか、検討していただければいいなと思いました。

それから今、米価が上がっていることもありまして、兼業農家は食べていけないから兼業農家だったところが、ちょっと農業をやってみようかなという兼業農家も今増えてきているように思いますので、やはり個人でやっている農家も、きちっと位置づけとして、年齢や性別を問わず、「みんながで」はなくて、そういった農家さんのことも、ここに配慮されたらいいのかなと思いました。それは私の意見なんですけど、この小目標で目指すこととして、「みんなが意欲と目標を持って取り組める農業の仕組み」とは、どういったものを想定していらっしゃるのか思いを聞かせていただければと思います。

農都創造部（農業） 御指摘のとおり、集落の農業というのは集落営農組織とか認定農業者などの中心的な担い手ではやっていけないとは考えております。そういう中で、農家数がこの10年間で半分になっていくということが国のほうから出されています。そういう中で、国は、農地を大規模区画にして集約していくという方向を出していますが、それで丹波篠山では具体的に解決できるとは思っておりません。やはり農業やめられても農家数自体は維持していく必要があるのではないかなと考えております。そういうふうを考えていきますと、集落営農組織とか認定農業者などを担い手として位置づけるとともに、さらにそういった小規模農家などを多様な担い手も位置づけて取り組んでいくことが必要ではないかと考えています。

農都創造部（農業） 最後に委員からありました「みんなが意欲と目標を持って取り組める農業」という文言については、前期計画のほうでは、「農業に携わりたい人みんなが取り組める」というところから文言を現状に改めさせていただいております。こちらのほうについては、農業を実際に、農産物の生産から始められる方もあれば、農業の生産だけではなくて、土地持ち非農家の方も多くの方を含めて、地域としても目標を持って取り組める農業という広い視点をもつ

での目標を掲げた言葉とさせていただいております。

荒木座長

これからの将来を見据えて、国の施策にもありますように、こういった大規模化の方向にいくのかなと思うんですが、やはりまだまだ丹波篠山市としては、小さな農家をもっともっと大事にしてもらいたいなと思ったので意見をさせていただきました。

## 日本遺産・創造都市をまちづくりに活かす

### 観光交流部

商工観光課、農都政策課より説明

#### 【主な質疑】

上田委員

「きっと恋する六古窯」は丹波篠山市だけのものではなく、ほかに5つの産地があります。この総合計画の中に、ほかの産地との取り組みが何も書かれていないのですがその辺はどうお考えでしょうか。

観光交流部

その部分につきましては記載が漏れております。日本遺産の六古窯推進協議会という推進母体がありますので、その辺りは記載しておくべきかと思っておりますので検討させていただきます。

渡辺委員

評価シートでも、この小目標をなしにしたらどうかと書きました。日本遺産とか農業遺産は、それはそれでひとつのツールではあるんですけども、現実的に行政が進めていくに当たって、かなり施策が非常に多岐にわたるので、手が回るのかと心配しています。現状と課題に書いてあるように、認知度がしっかりあって取り組んで効果が上がるのならばいいんですけども、なかなかこれに力を入れて予算も入れても、投入しただけの効果が上がってこないのがここ何年かやってきた結果ではないかと思っています。特に、成果指標の「補助事業を活用した市民活動件数及び学校の取組件数」では60件から150件となっていて、補助金を増やすというようなことだと思うので、それはどうなのかなと思います。逆にまちづくり、人づくりに生かすということなら、市民活動より学校の教育施策としてシビックプライドの醸成に結びつくようなことを取り組まれたらいいのかなと思います。私自身は、項目として残さないとは仕方ないとは思いますが、あまりこれで予算を使って行くという部分はちょっと効果がないかなという思い

がありますので、補助事業数を増やすというところについては、私としてはあまり賛同できないところです。

農都創造部（農業） 御指摘の成果指標、補助事業を活用した市民活動については、農業遺産を生かしたまちづくり補助金という部分で、考え方としては、現状の予算を増額ではなく維持することを考えています。一方、学校の取組というところでは、小中学校で黒大豆栽培であったり、食育事業などがこれまでもされてきておりますので、今後もそういった取組を続けて、次の世代に受け継いでいきたいということで、補助事業とまた別の視点から、教育の観点から取り組んでいきたいということで目標数値を掲げております。

渡辺委員 基本的に、補助事業の規模は現状維持ということで、学校の活動も現状維持ということですか。

農都創造部（農業） そうです。

荒木座長 成果指標すけれども、「観光情報サイトへのアクセス件数」について、前期計画からの様子を見ておりますともっともっと上がっていくのではないかなと思っているんですが、目標を220万件にされた理由を教えてくださいと思います。

観光交流部 前期計画では、観光情報サイトへのアクセス件数112万5,000件に対しまして、実績は140万3,000件で目標達成しております。現状、情報の発信の在り方、サイトだけではなくて、SNSなど多様なものが活用されておりますので、こちらの観光情報サイトにつきましては、観光のポータルサイトぐるり丹波篠山のみへのアクセス件数としておりますので、年齢やターゲットに応じていろんなチャンネルがあるということからアクセス件数については、220万件にさせていただいています。

### 多様な人材と交流でまちをつくる

商工観光課より説明

#### 【主な質疑】

渡辺委員 現状と課題のところ、市民交流都市という言葉がありますが、これはどういうふうに定義されているのでしょうか。

観光交流部 姉妹都市までは行ってないんですけども、工芸の分野で交流をしているベトナムのフエ市など、交流都市という文言を使用して

<p>渡辺委員</p>	<p>おります。</p> <p>市民交流都市となっているので、その言葉はどういう定義でしょうか。</p>
<p>観光交流部</p>	<p>様々な交流があるんですけども、行政とか関係者だけではなくて、市民間の交流という意味合いで使っておりますが、ほかに出てきているところはないんですけども、そのような意味合いで使っております。</p>
<p>渡辺委員</p>	<p>ちょっとこれは誤解も与えるかもしれないし、行政で一定の関係性がある都市ならばいいのですが、市民同士で関係性をもっている町もあったりすると思うので、きっちりした定義があって使われるのならばいいんですけども、ぼやかした表現にして、あえてこういう言葉を使わないほうがいいかなと思います。政策の展開の方向のところでも、市民交流都市ではなく、「など」ぐらいで納めてしまうくらいでよいのかと思います。</p>
<p>観光交流部</p>	<p>文言については、誤解を与えないように整理させていただきたいと思います。</p>
<p>上田委員</p>	<p>渡辺委員と同じような感じなんですけど、44 ページの現状と課題で、「市民交流を深める中で、多様な人材を育みながら、経済交流も推進していきます」と、経済交流という言葉が使われています。経済交流というのは私の浅はかな考えですけど、愛南町から愛南ゴールドや真鯛を購入していることとか、そういう話しか記憶にないんですけども、経済交流を今後、進められるストーリーであるならば、主要な取り組みの概要の中には何も記述がないので、この経済交流というのはどのようなことをお考えなのかお伺いします。</p>
<p>観光交流部</p>	<p>この文言は前期計画から引き続いて使用しているんですけども、前期計画の当時はコロナ禍前でもあり物産展とか、丹波篠山市の味まつりに交流都市から来ていただいたり、また丹波篠山市からは事業者さんに行っていて物産の販売などを通じた経済交流もしていただいたという意味合いでございます。今後も可能性がなくなっているわけではございませんので、その辺りの含みも持たせた表現としているというところですよ。</p>
<p>上田委員</p>	<p>そしたら行政の役割では、「市民交流を推進します」だけでなく、その辺の物産交流等もなども含めたということにされるのがいいと思います。実際に今、市民交流とか行政交流とかでデカン</p>

シヨ祭に来てもらっているのは、犬山市、愛南町、館山市、郡上市くらいにとどまっていると思います。現状から省かれたという意図は分かったんですけど、行政の役割の中で、どのような経済交流をやっていくか、その辺少し追記を頂けたらうれしいなと思います。

観光交流部

追記について検討させていただきます。

### 丹波篠山観光で地域のうるおいを高める

商工観光課より説明

#### 【主な質疑】

上田委員

小目標で目指すことで、一つは交通の利便性に優れています。日本遺産に認定されました、創造都市に加盟しました。景観モデル都市に選ばれました。全国的に注目されています。近年ではテレビのメディアに取上げられています。だから1年を通じて多くの観光客にお越しいただくようになってきましたと書いてあるんですけど、日本遺産、創造都市や景観とかは、全ては先人が育んで農村文化とか芸術文化があつてこそ、こういった冠をもらえたと思っています。だから、今後5年間のことをここで書かれるんだったら、次の5年後はやはり世代も変わってきて分からなくなるところがあるので、私が思うには、先人が育んだ文化あるからこそ今の丹波篠山の観光があるということは必ず明記されるほうがいいと思いますけど、いかがお考えでしょうか。

観光交流部

この小目標についてはそういったことを記載はしておりませんが、基本目標6のブランドをつくるのところで、丹波篠山の宝石、地域資源を日本の宝石に育てるという部分で、ブランド戦略に掲げました五つの宝について、これまで産み育ててこられた丹波篠山人という丹波篠山市の市民の誇りになる地域資源というふうに書かせていただいております、この分野では書いていないということです。

上田委員

分かりました。もう1点。ユニバーサルツーリズムの記述が何もないんですけど、その辺どうお考えですか。

観光交流部

ユニバーサルツーリズムという文言は使っておりませんが、主要な取り組みの概要のところ、これは行政だけでもなく、

市民や事業者だけでなくということで、行政と市民、事業者の共同の役割という部分の中で、この文言を使っておられませんけども、「誰もが丹波篠山観光を楽しめる環境を整備」というようなことで記載をしております。

上田委員

ユニバーサルツーリズムという言葉は要りませんか。ユニバーサルツーリズムという言葉も標準的になってきて、研修もされている中で、誰もが楽しめるだけでよろしいですか。5年間の計画の中にユニバーサルツーリズムという明確な言葉を書かなくてもよろしいですか。

観光交流部  
渡辺委員

文言の追記について検討させていただきます。

先ほど農業の収益性のことについて申し上げたのですが、この小目的に挙げられている「観光で地域のうるおいを高める」というところでは、やはり観光関係に携わる方が潤ってもらわないとおけないと思います。先日もリーサスのデータを見ていたのですが、過去5年ごとのデータで、全産業の中で顕著な数字が出ていたのは観光関係です。観光関係については労働生産性が上がって、働いている方の手取りが少し増えてきているのかなっていい傾向と思うんですけども、ただ全国レベルで見ると、はるかに低い労働生産性だったのが、全国に少し近づいたぐらいのものです。これだけ観光地と言いながら観光に携わっている方の手取りが少ない観光地なんです。だからその辺りは、一定、行政の中でも課題を持ってもらって取り組んでいかないと、これから働き手がどんどん少なくなっていく中で、観光関係で地域の活力を維持しようと思っても、なかなか携わってもらえる人とかも集まらない部分があるので、その辺りについては、どこかの文言でそれを含んでいるというような認識を持っておいてもらえたらうれしいなと思うんですけども、記述としてはちょっと探したけどもなかなか見つからないんですけども、考えてもらえたらと思います。

観光交流部

商いで地域のにぎわいを起こすという部分については、この後の小目標でも記載をしておりますけども、やはりここでも事業所数とか従業員数が減少傾向にあるというようなことを課題に挙げております。手取りのところまで言及はしておりませんので、観光関係の従事者の経済的のところまで触れていくかどうかの検討はさせていただきたいと思います。

渡辺委員

成果指標で宿泊者数を 24 万人ということにすると、かなり高い数値です。これだけしようと思ったら、現状では多分、人手がないからお客さんを入れられないというところもあるとおもいますので、認識としては持っておいてもらえたらうれしいです。

### 外国人観光客のおもてなし体制を整える

商工観光課より説明

#### 【主な質疑】

隅田副座長

施策の展開の方向で、「絶えずインバウンドの動向を」の「絶えず」という文字が、絶滅の絶みたい印象を受けるので、「常に」とかいうぐらいの表現にされてはどうかと思います。私の言葉のイメージなので、意見です。

観光交流部

文言について検討いたします。

渡辺委員

先ほどもほかのところでも言ったんですけど、もう資源が限られていく中で、この小目標自身をなくしたらいいのではと思っています。上田委員が言われていたユニバーサルツーリズムの中に外国人も含めてしまって展開されるほうが、いろいろ細かい取組を書かれています。モニターツアーとファムトリップ以外のところについては、基本的にほかの来訪者に対してと同じような形で、多言語化も市民の皆さんに対してのサービスだと思えば、あえてこれを置いておく必要もあるのか。当然、取り組めたら取り組んだらいいんですけども、行政の中の人材も限られてくる中で、一定、集約化をするのであれば、このあたりのことは考えられてもいいのかなと思いました。これを挙げられて現状 3 万人を 20 万人にするだけの価値はありますか。

観光交流部

先ほど地域のうるおいを高めるところにユニバーサルツーリズムの研究をさせていただいておりますし、ユニバーサルツーリズムにつきましては当然、外国人も含んだと形になっています。これを改めて小項目というような形で立てるのかどうかは、また検討させていただきますけれども、おっしゃっていただきました外国人観光客数の 20 万人につきましては、現在、目に見えて外国人の方が増えてきておるというのも事実としてございまして、今もワラワラ市から交換留学生の方がお越しになっておられ

まして、お話をしてみますと日本で相当なお買い物もしていただいているという中で、やはり経済効果といたしましては、数字から見る中でも、日本人観光客よりも、外国人観光客のほうが消費額が大きいということもございますので、先ほど渡辺委員のほうからも御指摘を頂きました経済効果を高める。また、観光事業者の収益を増やすというようなところにも寄与してくれるのではないかと考えておりますので、この目標数字についてはやっていきたいと思いますが、この小目標で、改めて外国人観光客を特出しするのかというようなところにつきましては検討させていただきたいと思います。

### 元気な商いで地域のにぎわいを興す

商工観光課より説明

#### 【主な質疑】

上田委員

キャッシュレス化についてです。先ほどの外国人観光客の体制を整える中では、商工会や観光協会はキャッシュレス決済の導入を推進しますということがあるんですけど、この元気で商いで地域のにぎわいを興すの中で、私も9割以上がキャッシュレス化してます。商店街の中でも商工会、観光協会もキャッシュレス化を目指している中で、なぜこの小目標の中でキャッシュレス化の推進がないのか。その辺の見解を教えてください。

観光交流部

正直申しまして、記述が抜けていたというところがございますけれども、この7月から8月にかけて、商工会さんを通じて、商業観光部会の皆さんにアンケートをとらせていただきました。キャッシュレス化のことをどう考えておられるのか。現状導入しているか、していないかと、今後導入される意向があるかというのも含めて聞かせていただいたんですが、回答いただきましたのは204件の事業所さんからですけども、約7割が導入済みであるという回答が得られました。我々としては未導入の事業所さんについて何か支援ができないかなと考えていたんですけども、未導入の事業所さんについては今後導入する意向がないというようなことが多く見受けられました。その3割のうち今後導入を検討したいというところは3件しかなかったということで、こ

れについては商工会さんと、今後どのように支援をしていくべきなのかということ相談いたしまして、導入済みのところについてはPRをする。また、未導入のところにつきましては、今後、新たに業を起さされるようなところには、そういったメニューもやっていたらどうかというようなことで、キャッシュレスの導入については今これからも推進をしていくつもりであります。記載が漏れておりましたので、今後検討させていただきたいと思っております。

上田委員

2点目ですけど、先ほどの説明の中で、はじめは商工会だけだったんですけど、様々な関係機関と連携しながらということ、観光協会とか飲食組合とか、本当にいいことを入れられたかなというふうに思っています。しかしながら、施策の展開の方向の中では、商工会と様々な関係機関と連携の記載をさせていただいているのですが、主要な取組の概要の中では、今までと同じで商工会だけの記載という印象を受けたんですけど、その辺はどうでしょうか。やはり同じような内容を記述されるほうがより分かりやすいと思えますけどいかがでしょうか。

観光交流部

確かに展開の方向と主要な取組の概要との整合性がとれておりませんので、整合性を持たせるように追記をしていきたいと思っております。

渡辺委員

デカンショポイントです。この項目に入っていますが商工業者の皆さん役に立っていますか。

観光交流部

現状の加盟店が12件という数字が表していますとおおり、皆様、なかなか手数料の負担がネックであるということから、ちょっと二の足を踏まれているということもござります。今年度になりますけれども委託をさせていただいて、加盟促進として、いろいろな業者さんに、我々と一緒に声をかけていくというようなことをしております。やはり広く声をかけても、なかなか御理解いただけないところもありますので、今後は宿泊業者さんとか飲食業とかターゲットを絞って、そしてテーマを決めて加盟促進を働きかけていく必要があると考えております。今年度については、宿泊ポイントというものの導入を予算化しておりまして、泊まれた方には1,000ポイント差し上げますというようなことで、そういったキャンペーン的にテーマを決めて打っていくことによって、事業者さんの理解が得られやすいようにということで今後も

引き続き続けていきたいと考えております。

渡辺委員

私はやめたらいいと思います。考え方としては良かったのですが、やはり事業者さんに興味持ってもらって参加がしてもらうことが必要で、こういうポイントシステムが成り立つには全体で数億円の規模がなかったら成り立たないというようなことも聞かせてもらったこともあります。これが5年後50件になったとしても、とてもそこまでの規模にはならないし、ポイントのメリットは誰も受けないということになるので、今すぐやめなかったとしても、ここに書いてしまった5年間やめられないので記載をやめるようにしたらどうかと思うんですけど。

観光交流部

我々といたしましても、12店舗の現状で、今、3店舗ほど増えそうな状況ではあるのですが、このレベルではスケールメリットが出てこないというのは認識しています。加盟店ももちろんなんですけど、これを利用していただくお客様が増えて初めて、お客様の指向データとかが役に立ってくるということも聞いていますので、今一度、頑張って加盟店舗数と同時に利用されるお客様を増やしていきたいというふうに考えています。特に今年は申しましたけれども宿泊ポイントをまずフックにして増やしていきたいと考えていますけれども、それでも商工業者の皆様から御理解を得られなかったり不要だというようなお声が出てきたりする場合には、見直しも当然考えてまいりたいと思っておりますので、今しばらく頑張りたいなと思っております。

隅田副座長

今の件ですけど、デジタルポイントだから駄目なんですよ。他市ではデジタル通貨になっているんです。尼崎も50億円ぐらいまで流通量を増やすといった形にしています。そういう通貨を使ったほうが、利用者も得だなというところがあるとみんな使うんですけど、もらったポイントだけとなると、どこで使ったらいいのかというところで、余りにも事業規模が小さいものですから、最初のときはちょっと話題になるかもしれませんが、使ってよかったよかっていう形でというような波及効果が今の制度だとないと思いますので、私はポイントじゃなくて、視点を変えて調査研究を進めていただきたいなという意見です。

観光交流部

こういう技術や仕組みについては日進月歩でございます。このデカンショポイントはそのまま頑張っただけなんですけど、あらゆるこの情報につきましては、日々勉強して取り組ませていただ

きたい。ただ、例えば「はばたんペイ」につきましては1万円で2500円分のポイントが付与されます。2割5分という大きな魅力がございます。残念ながらデカンショポイントも様々な取組に対しての付与を進めるんですけど、正直大きいとは言えません。こういったところもやはり商工業の振興という意味で、もう少し各部署が頑張っポイント化してくれるようにしていきたいというふうには思っております。いずれにしましてもいろんな情報を入手しまして検討させていただきます。

金崎委員

引き続きってポイントのことですけれども、宿泊に関して今後進めていきたいというふうに言われているんですが、宿泊される方はやはり市外の方が対象になってしまうと思うんです。もちろんそこも重要なんですけども、市民の向けにも使いやすいようにもうちょっと考えていただけたらいいなと思います。私も使わせてもらったり、お店の方、利用されている方の両方に意見を聞かせてもらったりするんですけども、まずアプリを登録するところから手こずってしまうので、その時点で止まってしまうっていうのをよく聞くので、まずそのアプリをどういうふうにしたら簡単に導入できるのかを分かりやすく説明を丁寧にしていただけたらいいなと思います。意見です。

荒木座長

現状と課題のところですけども、これは前期計画からも変わっていないのですが、「新しい生活様式導入によりテレワークなど」ということです。今、出社回帰の方向へ大企業も週5日の勤務を義務化するなど変わってきているので、ここの一文はもう要らないのかなと思います。こういった働き方ということで、移住されている方たちが新規開業されるとか、そういったことも増えてきているかと思うんですが、ここ最近ちょっと気づいたんですが、最近では商品開発をされて実店舗を持たれるとか、あと事業の形態を少し変えて2店舗目をされる方が増えてきているなと思いましたので、空き店舗増加として新規開業への支援は継続して、2店舗目など事業拡大されようとしている方にも支援していくことが空き家対策になるのかなと思いますので意見としてお伝えします。

丹波篠山の宝石地域資源を日本の宝石に育てる

商工観光課より説明

【主な質疑】

上田委員

日本の宝石ということは、地域資源を育てるということになっているのですが、丹波篠山の宝石をさらに日本の宝石に育てるといふところは、どの辺りに記述されているのか具体的な記載箇所を教えてください。

観光交流部

その辺りについては計画の中に記述はございません。

上田委員

分かりました。

渡辺委員

この項目を絵にしたのがあのロゴマークかと思います。いろんな取組をされている項目なので、全体的なことになってしまいますのですが、観光のほうにできるだけ特化して話しますけども、やはりロゴマークをせっかく作ったのですが、いつも作ったら終わりなんですよね。それもニュースや新聞で書いてもらったら終わりみたいな形で忘れ去られるというような形ですけども、それが宝石を象徴するものだというようなことなら、いろんな方面でそれを普及、活用していくということで、できるだけ認知してもらおうようにしていかないと何だったのかなと思っているので、担当課ではないかもしれませんが横断的な話です。

観光交流部

私どもの観光の所管では、ついこの間デカンショセレクションの本年度版が出ました。そのカタログにロゴマークを採用していただくなど、商工観光課といたしましては、あらゆるところで使用して、皆さん方にも説明をさせていただいておるところでございます。さらに我々も起点になりまして全庁的に使用を訴えていきたいと思っております。

荒木座長

この小目標で目指すことの中にある「それらを生み育ててきた『丹波篠山人』」と括弧してあるんですが、この丹波篠山人についてどのようなイメージなのか教えてください。

観光交流部

こちらにつきましては、令和3年度から使っております丹波篠山ブランド戦略のほうで五つの宝石としまして、おいしい食べ物やきれいな城下町、歴史的な町並み、伝統文化と技術、豊かな自然環境と景観、この四つのものを丹波篠山市の宝石として守って引き継いで磨き上げるのは人ですと。そこで丹波篠山に住む人を、丹波篠山人として、宝物の一つに定めるということとしております。この総合計画の中でこの丹波篠山人の定義とございますか、意

味を示しておりませんでしたので、おっしゃるとおり、これで分からないと思いますので、どこかで注釈を加えたいと思います。

### 丹波篠山ブランドの情報を効果的に発信する

商工観光課より説明

#### 【主な質疑】

渡辺委員

先般、今年の全国ブランド調査のデータが届いたので見ていたんですけども、その中で、丹波篠山市の特徴として、丹波篠山市に高い関心を持ってもらっているのは、20代と50代以降が中心で、30代、40代、さらに細かく見ると子どもがいる世代は、余り丹波篠山市のブランドに対する魅力を持ってないというデータが今年も出ていました。これについては過去からずっと傾向が変わっていません。これについては丹波篠山市も交流人口の取組をしているんですけども、交流人口の将来のことを考えていくと、やはり若いうちからの関わりが必要ではないかと思えます。子どものときに連れてきてもらったという体験を持って、継続していけるようなストーリーをある程度描いて、単に遊園地に行ったとかということではなく、町の魅力を感じてもらえるようなサービスの情報を積極的に発信して、その層の関心を高めるということがかねてからの課題だと思っています。今年も幾らか取り組んでいると思うんですけども、もう少し絞り込んだ部分で5年間に組み込まれてもいいのかなと考えているんですけど、その辺りについてどうでしょうか。

観光交流部

おっしゃるとおり丹波篠山市に余り関心の高くない層が子育て世代であるということで、こういった層にどう働きかけていくかについては、やはり先ほども申しましたけれども、若い層、20代なんかは、おしゃれな街歩きとかいうところでブランド価値を見いだしていただいているのかなと思うんですが、子どもが安心して遊べるとか、子どもが楽しめるような場所があるということをもっとアピールする必要があるのかなと考えております。この30代、40代の方については、今年度から少し取組をさせていただきましたけれどもフォロワーがたくさんいらっしゃるインフルエンサーにお願いをしまして、ターゲットを絞って、こういったとこ

ろで遊べるんですとかというような内容の発信をしていただく。それによって直接的にアクセスがされるというようなこともありますので、来年度についてもそういったことも引き続いて考えていきたいと思っております。そういったことが効果があるとなりましたら、来年度以降についても、引き続いて検討していきたいと思っております。

観光交流部

インフルエンサーの方からは大変すばらしい報告書を頂いております、それを見ておりますと今まで知らなかったという声が非常に多かったと感じております。したがって、子育て世代へのアプローチというのが、ともすれば丹波篠山は子育て世代での観光に行ったり遊びに行ったりというのは余り魅力的ではないのかなということも考えておったんですけども、それよりも何よりも、知らないという方が多かったものですから、こういったところはアピールを続けていくべきかなという考えております。

それからもう1点、今年、国際博の一環で取組を進めていまして、教育旅行についてのアプローチというのができないかなということで取り組ませていただいております。これは観光庁さんの補助金を活用させていただきまして、修学旅行また校外学習について丹波篠山をテーマにしてもらえませんかというのを、今JTBが引受け会社になっていただきまして組んで頂いているところです。おっしゃっていただきましたとおり原体験というのは長く残るんだらうなというようなところで、小学校何年生のときに、丹波篠山に行ったなみたいなところが少しでも残ってくればなあということで、そういった取組をさせていただいております。学校やJTBに聞きますと、種をまいてすぐに芽が出るというものではないようでして、学校のスタディーツアーというのは2年、3年スパンということで聞いておりますので、担任の先生とか、教頭先生、校長先生が代わられるタイミングで、その行先も変わるというようなことをございますので、今年から種をまき始めて、2年後3年後に採用していただけるようにいうところを目指してやっています。

荒木座長

主要な取り組みの概要のところ、「市民、事業者、行政など関係者が共通したデザインやロゴなどを統一したイメージを発信します。」とあるのですが、内容が少し分かりにくいので説明を願いたいと思っております。

観光交流部

これは先ほども出ておりましたロゴマークでございますけども、ロゴマークを通して丹波篠山とはこういったところであるという地域の印象といいますか、イメージを発信していきたいと考えております。山があり、お日様が照り、イノシシや黒豆、おいしいものが取れたりとか、そして人の手がそれを包んでいるというようなロゴマークでございますけども、ロゴマークが地域全体をあらわしているという意味合いで、こういった表現をしております。少しちょっと分かりにくいかもしれませんが、表現方法については検討させていただきます。

#### ■議員間討議

荒木座長

これより議員間討議を行いたいと思いますが、まずは、本日の質疑に関して、部長等に対する確認質問の有無を協議したいと思います。

(意見なし)

—部長等への確認 なし—

—市長等への質問 なし—

荒木座長

御意見があれば頂きたいと思います。それでは、小項目ごとに発言を頂ければと思います。

#### 小目標 多様な人材と交流でまちをつくる

荒木座長

質疑の中で出ておりました市民交流都市についてのご意見について私のほうで調べたのですが、他自治体でも市民交流都市という文言が使われているところもありましたが、これに関して、使わない方向でということでしたが、いかがでしょうか。

隅田副座長

この概念はちょっと分かりづらいですね。

渡辺委員

これはどこを指すのかを示してもらえたらうれしいと思いま

	す。
上田委員	姉妹都市と防災協定を結んでいる市とはきっちり分けて合っ て、それを交流都市なのか市民交流都市というのか。私は交流都 市と思います。
渡辺委員	私もそう思います。
隅田副座長	例えば、ベトナムのフエ市を例に出されていきました。
上田委員	調べてみると友好都市になっています。
渡辺委員	友好都市であれば分かりやすいと思います。
上田委員	視察研修などに補助をしているのですが、国内友好都市という 位置づけをしています。
渡辺委員	そうですね。フエ市はどのような位置づけなのでしょう。
荒木座長	新しく交流してる都市が出てきてこういう書き方になったんで すかね。
上田委員	防災協定を結んだところとは、補助金を出して国内友好都市と しています。フエ市はちょっとわからないですね。
渡辺委員	ユネスコ創造ネットワークに入っているからでしょうか。いず れにせよ、姉妹都市や国内友好都市との交流を深めますというく らいにしてもらえたらと思います。
荒木座長	その部分については検討いただくように報告したいと思いま す。つぎに、評価シートにあります経済交流の件はいかがでしょ うか。
上田委員	経済交流も進められたらありがたいと思うのですが、推進して いきますという記載があるのに、後の主要な取り組みの概要の中 では、市民交流を推進しますだけになっていますので、経済交流 も入れられたらいいのではと思います。
荒木座長	皆さんはどう思われますか。
隅田副座長	私は経済交流というと、青山スクエアのことが頭に浮かんでき ました。丹波篠山の黒豆を持って行って青山で販売しておるとい うのが経済交流かなと思ったりしたんですけどね。
上田委員	以前は高山市の高山祭でも売っていました。経済交流が無理な ら、ほかの項目では交流を深めますとなっているので、初めから 経済という文言をわざわざ入れる必要はないなと思っただけで、 経済を入れるのであれば後ろのほうにもどこかに入れてもらっ たらありがたいなということです。
荒木座長	現状と課題の中で、市民交流を進めながら経済交流もあつたら

いいなという感じですね。

上田委員

もしくは行政の役割の中で市民という文言を抜いて、協力関係を含め交流を推進しますでもいいと思います。

#### 小目標 環境を守るまちづくりに生かす

上田委員

現状と課題の中には森林関係が入ってないんです。前期の基本計画には、森林のことをきちっと入れておられますので、多分これはもう単に抜けているだけだと思いますので、目標で目指すことと施策の方向で森林を書かれるのでしたら森林のことも現状と課題は必要だと思います。

渡辺委員

質問はしなかったんですけども、91 ページの施策の展開の方向のところ、下から二つ目の丸に、木質バイオマス資源の有効活用を図りとあります。前期計画では具体的に木質バイオマスの部分が入ってなくて、これを突っ込んできているんですけども、多分、ボイラーとかの更新を後期計画期間中のどこかで考えないといけないからこういう言葉を入れているのかなと推測していました。

隅田副座長

ペレットボイラーはまだ8年ぐらいなんですけどね。

渡辺委員

ペレットボイラーは10年くらいで更新になるのではと思っています。

隅田副座長

重油ボイラーは20年持たせたけれども。バイオマスボイラーはもっと早いと。

渡辺委員

だから、これが現実的に予算がなかったらできないのですが、今、そういうメニューがあるのか。

上田委員

今はもうないと思います。

渡辺委員

一方で、バイオマスさんのほうも製造してくれてるし、それをいわゆるペレットストーブというふうにも解釈できるのですが、気になったのはこの前見たボイラーの更新を意図しているのかどうか、聞いていたら良かったのですが。これを入れることによってボイラーの更新は絶対にしないといけないとなっても、ちょっと難しいと思ったりしました。

隅田副座長

私はそこまでは入っているようには思わないんだけど、ただペレットストーブを使ってSDGsを進めていますよというイメージです。

荒木座長 つぎに、自伐型林業の推進が結構、文言として入ってきているイメージがあるという意見があったと思いますが、その辺りについては、どのようにまとめたらいいでしょうか。森林組合さんなどの大きな森林業者さんのことも含めて、丹波篠山の森林環境を守っていくということを目指していくべきであろうと思いますが、この文言について、思われていることがあれば、発言いただけたら嬉しいです。

隅田副座長 森林組合も大きな事業者じゃないし、大きな事業は全て養父市から来てもらっているし、市内は個人林業家が数件あるぐらいのことやから、自伐型ぐらいしか進められないという方向性だと思いますけどね。いわゆる里山に近いところの植林しかなくて、3割弱しか植林の場所もないので、大規模な林業者が成長できる環境にはないから、養父市や朝来市のように大規模事業者は育てられないので、自伐型に取り組んでもらうということだと思います。

上田委員 今は、行政の役割の1番下ところでしょうか。

荒木座長 行政の役割の中の1番最後の項目と市民、事業者と行政の協働の役割の項目の2個目です。評価シートでも自伐型林業の推進を明記すべきであるという意見があります。

上田委員 私は小項目で森林の記述はあるが、90ページの現状と課題の中では全く森林のことが書いてないと。あと間伐事業や自伐型林業の推進ということを明記すると。間伐というのは先ほど言ったように、325ヘクタールの目標があるのに森林整備面積105ヘクタールしかできていない。だから、そのことを現状と課題に明記してほしいということを書いているだけです。

荒木座長 現状と課題の中で、間伐事業や自伐型林業の推進を明記すべきであるという意見について、私はいいと思いますので副座長と相談いたします。

#### 小目標 魅力ある農業を育てる

荒木座長 渡辺委員が言われたことだと思うんですが、97ページの施策の展開の方向のところで、「規格外品の有効活用などの業者の収益確保を進めます」とある文章については、収益確保を推進してほしい視点を持ってもらいたいなと思っているんですが、規格外品の有効活用

ではないということだったでしょうか。

渡辺委員

規格外品の有効活用が嫌ということではないけれども、そういう2次的なことではないです。

荒木座長

農業の経営そのものという意味合いですね。

渡辺委員

はい。この規格外品の有効活用は、通常は「など」の中に入る文言かと思います。審議会でそういう意見がということでしたので、本気で規格外品を活用するのであれば、例えば給食センターの隣に前処理する施設をつくって、そこで下処理をして使える形にして給食センターとかほかのところに納める仕組みをつくったらというくらいの気持ちでやるのであればいいのですが、なかなかこれだけでは動かないと思います。

上田委員

総合計画なので、規格外品で農業者の収益を確保したらいいのではないかというのは委員さんの一つの意見だと思いますけども、その委員さんの意見を大事にするのであれば、「規格外品の有効活用を図るとともに」として、そこを一つに括って、あとは「農業者の収益確保に努めます」とすれば二つに分かれるので、一つにしている今の文章から分割する文言にすれば、両方使えると思います。

隅田副座長

文章のつくり方の問題だと思います。

#### 小目標 農地と農村環境を守り未来を継承する

上田委員

耕作放棄地のことだけはこの総合計画に入れていただきたいというのが私の思いです。

隅田副座長

それは現状と課題のところでしょうか。

上田委員

課題のところも、それを解消するための取組方針の中でも、一切耕作放棄地ということは出ておりません。

荒木座長

多面的機能支払交付金については、これでいいでしょうか。

大内委員

次のステージに行くのであれば、広域化を目標値にさせていただいたほうが、レベル的には高いかなと思います。

渡辺委員

この目標を2段書きぐらいにしたほうがいいのではと思います。全体としてもできるだけ集落が関わってほしい。そして、その集落が複数集まって広域化するというところで、下に広域化の組織数いくらかという書き方にしてもらってもいいのかなと思います。現状が3組織ということであれば、どれだけの目標でするかで違ってきますが、

10 組織というたらちょっと難しいと思うので、倍くらいとかどうかと思います。

#### 小目標 丹波篠山観光で地域のうるおいを高める

- 上田委員 ユニバーサルツーリズムという文言はぜひとも、今推進しておりますし、今後も推進して行かれるだろうと思いますので、「障がいや年齢、言語等に関わらず」という記載はあるんですけど、これはユニバーサルツーリズムの説明ですので、入れていただきたらと思います。
- 渡辺委員 それは県に対しても入ってるか入ってなかで大分違うと思います。県事業を今後も継続してもらおうとする場合は、入っているほうがいいと思います。
- それから、目標数値の宿泊者数について、これは過去につくった観光まちづくり戦略かなにかの数値で、その 2030 年の目標が 24 万人です。現状が 10 万 9,000 人からすると、ルートインホテルができる前の数字だとは思いますが、その戦略をつくったときよりも 2 万人ぐらい減っているんです。それが幾らか前期計画のときに 12 万人ぐらいあったものが、少し増えて 15 万人ぐらいに増えてきていたらしいのですが、今ある計画の数値だから設定したということではあるけども、絶対達成できない数字だと思います。
- 荒木座長 これについては多分、次期の観光まちづくり戦略をつくるに当たって、ルートインとささやま荘の動向が見えてから、今年のまちづくり戦略を仕上げると聞いていますので、その数値かなと思いました。根拠を聞いてみますか。
- 渡辺委員 根拠は大体分かっているのですが、なかなかハードルが高いなと思っています。
- 上田委員 平均して 1 日 700 人になりますね。
- 渡辺委員 実際に今、それだけ泊まる場所はないと思います。
- 上田委員 キャンプは宿泊者数には入りませんので、いくらしても 700 人にはならないと思います。
- 渡辺委員 だから、この目標でいくのであればホテルとかでも受けるけども、民泊とか農泊とか、そういう取組をすることも盛り込まないと整合性が取れないと思います。

上田委員	これにグランピングが入っているかいないかの差だと思います。キャンプは仮設ですが、グランピングは宿泊に入るので、ユートピアや西紀のグランピングが入っているかどうかというところかと思っています。
金崎委員	ユートピアのレイクプラザは最大 188 人のようです。
上田委員	担当課も、ある程度、根拠は持っているはずだと思います。
渡辺委員	目標値はこれとして、これでやることしたらいいのですが、ただこの目標にするのであれば、もうちょっとしっかりと施策をうたないとしんどいのではないかと思います。農泊、民泊、もうちょっとできるのであればゲストハウスにも取り組んでもらうように推進するとか。これだけ高い数値を掲げているのに、それに対応する施策がないなと思いました。

#### 小目標 外国人観光客のおもてなし体制を整える

隅田副座長	よく知らないのですが、「タビ前」とか「タビ中」とか、最近カタカナで書くのでしょうか。
荒木座長	全部カタカナの表記も見る気がしますが、「たび」が漢字で「なか」がカタカナでした。
隅田副座長	「たび」がカタカナだと足にはく「足袋」を思い浮かべてしまいます。
渡辺委員	そうすると、これは逆になっているわけですね。
荒木座長	これは言うておきます。この小目標を削除したほうがいいではないかという意見はいかがでしょうか。
渡辺委員	いくらインバウンドにも取り組まないといけないのは確かです。ただ、担当課も仕事がいっぱい持っているんで、ちょっとずつでも整理しないと、集中してきかないのではと認めてのことです。インバウンドなら、ユニバーサルツーリズムの中に入れられないかと思ったところです。
荒木座長	5 年後に、インバウンドは必要ということで、このままにしておきましょう。

#### 小目標 元気な商いで地域のにぎわいを興す

荒木座長

キャッシュ化についていかがでしょうか。

隅田副座長

デカンショポイントでは増えないでしょうね。

渡辺委員

今、取り組んでいるところなので、今すぐやめろとは言えないけれども、ここに書いてしまったらあと5年はしなければならないことになってしまいます。ほかの場所でデカンショポイントは上がっていませんよね。上がっていないのであれば、あえて成果指標でデカンショポイントを上げなくてもいいのではと思います。どちらかと言うと、隅田副座長がおっしゃるように地域通貨の研究をしてもらったほうがいいと思います。

隅田副座長

成人式に参加したら500ポイントもらえますとか、資源ごみの回収でポイントがつくというようなことなので、積極的なまちづくりの地域経済が潤うような発想ではない感じがします。

金崎委員

よく聞くのが、そのポイントをどこで使うのか。使うところが限られているので、余計登録者数も増えないということになっていると思います。

隅田副座長

QRではないから店舗のほうも説明の手間が大変だということもあります。

渡辺委員

今の行政やり方も、キャッシュではないけれどもポイントでばらまきしていることになっています。原資がどこかから入ってくる仕組みならいいのですが、公金で処理しているので、結局はばらまきなんです。

隅田副座長

ばらまきと言えるほどの金額でもないとも思います。成人式に参加して500ポイントもらえて、それをもらえるから参加するとも思えないし、デカンショポイントに対する発想がちょっと私はちょっと違うと思います。

荒木座長

恐らくまだ2年はやるとありますが、ここに載せると渡辺委員が言われたように、5年間ということになってしまうので、また、デカンショポイントの項目もここしかないので、この成果指標の中にはもう入れなくていいのではないかと思います。

上田委員

国の補助的な事業でしたか。市単独事業であれば切れますが。

渡辺委員

これだけではなく、幾つかの取組の中の一つに入っている可能性はあるかもしれません。

荒木座長

成果指標としては記載しなくても問題ないということですね。

上田委員

それは構わないと思います。

**小目標 日本遺産、創造都市をまちづくりに活かす**

— 意見なし —

**小目標 丹波篠山の宝石（地域資源）を日本の鉱石に育てる**

— 意見なし —

**小目標 丹波篠山ブランドの情報を効果的に発信する**

渡辺委員           もし可能であれば、課題のあるターゲットがあるので、ターゲットごとにとか、ターゲットを絞ってとか、ターゲットに合わせた情報発信が求められるとなっているから、それを受けてターゲットに合わせた情報発信すると。現状と課題ではこれを書いているから、それを施策のほうにもちゃんと書いてもらえたらいいと思います。

荒木座長           ほかにご意見は内容ですので、これで終わりたいと思います。全体的なこととして何かありますか。現状と課題のところ、各課によって、文章の表現の仕方が違う部分については、どのように思われますか。

渡辺委員           全体的に点検してもらえたらと思います。

隅田副座長   あいさつ

閉会